SNS で若者はどのように誤字を修正するか

ー使い分けとその要因に着目してー

谷　茉利子(京都大学大学院生)

1. はじめに

インターネットの普及に伴って，コンピュータを介したコミュニケーション(Computer-mediated communication; CMC)は，現代では広く一般的なものとなった．CMC では，文字による情報を中心とした伝達，非言語的情報の欠落など，対面によるコミュニケーション(Face-to-face interaction; FTF)との違いから，CMC 特有の言語的特徴が観察される(三宅，2005；落合，2022；田中，2014 など参照)．これをめぐり近年では，CMC における言語行動を FTF のそれと比較する研究や，CMC で観察される言語使用と社会的属性との結びつきを明らかにしようとする研究が数多くなされている(Flesch，2019；Squires，2012；Tagliamonte，2016 など)．そんななかHerring(2007)は，CMC における言語使用の多様なあり方をより包括的に捉えるため，複数個の CMC 構成要素(Facets)による CMC 分類を提案している．Herrings(2007)によれば，CMC における言語形式やコミュニケーション形式は，その機能的側面(e.g.やりとりの同時性，匿名性，利用可能なチャンネル)および社会的側面(e.g.やりとりの構造，参加者の背景，トーン)によって規定される．このような分類の試みからは，現在 CMC に関する研究が活発に行われるなかで，CMC の特徴がどの程度言語行動を制限あるいは許容しうるかにも目を向ける必要性が高まっていると言えるだろう．

そこで本研究は，CMC における送り手の修正行動の選択に焦点を当てることとした．本研究における送り手の修正行動とは，LINE や Instagram のダイレクトメッセージ(DM)などのチャット形式の SNS において誤字をした際に，その誤字を次以降に送信するメッセージで修正する，あるいはしない言語行動のことを指す．これらの SNS は，すでに言語使用への影響が議論される分かち書きや，会話の同時進行，話題の並列が可能であるといった共通の機能的特徴を有する(Herring，2007；加納ほか，2017；西川・中村，2015)．英語では多くの場合「アスタリスク『*』＋修正内容」の形式で誤字が修正されるのに対し，日本語ではそのようなケースは稀で，他にいくつかの修正行動の種類が存在するようである．では，日本語の修正行動にはどのようなものがあり，それらの選択はどのような要因に作用されるのだろうか．本研究では SNS における修正行動について，収集した誤字修正場面の用例および意識調査の内容をもとに，送り手の修正行動の選択に影響を及ぼしうる CMC の特徴について質的に検討する．

2. データについて

情報提供者に誤字および修正行動が確認できる LINE のチャット画面をキャプチャしてもらい，画像 1 枚ごとその状況に関する情報(i.e.キーボードかフリックか，やりとりは同時か間隔があいていたか，受け手との親疎関係)を提供してもらった．筆者自身の 2018 年から 2023 年まで(20-25 歳)のチャット画面も含め，20 歳から 29 歳(当時この年齢のものも含む)までの若者から計 92 件のデータを収集した．内訳は，キーボード入力によるものが 26 件，フリック入力によるものが 66 件である．以下の表 1 に，修正行動の場面におけるやりとりの共時性および受け手との関係性の組み合わせごとのデータ件数を入力方法別に示す．

表 1　誤字および修正行動の含まれるデータの件数

	キーボード入力		フリック入力	
	親しい	普通(親しくない)	親しい	普通(親しくない)
同時	16 件	8 件	39 件	3 件
非同時	1 件	1 件	17 件	7 件
	計　26 件		計　66 件	

さらに，誤字や誤字の修正に関する意識についてもアンケート調査を実施し，10 人からの回答を得た．アンケートは，誤字や修正行動全般に関する自由記述と，CMC の機能的側面としてやりとりの共時性，社会的側面として受け手との関係性に

着目した修正行動に関する自由記述の2問で構成される．本研究ではこれらのデータをもとに，LINEで若者がどのように誤字を修正しているかについて，用例をもとにその実態を記述し，その選択に作用しうる要因を検討する．

3. 結果と考察

3.1 LINEにおける誤字の様相

修正行動とその選択要因について検討する前に，データに見られた誤字を分類する．得られた92件のデータからは，大まかに2つの誤字タイプが確認できた；キーボード誘発性の高い誤字(i.e.「台風の影響る」に見られる「？」と「る」のような操作ミス)と，送信前の誤変換による誤字(i.e.「以外」と「意外」のような変換ミス)である．前者は受け手に内容理解の支障をきたしやすい誤りであり，後者はそれに加え，時に送り手の知識が問われるような誤りであるといえるだろう．以下，キーボード誘発性の高い誤字を誤字タイプA，変換ミスによる誤字を誤字タイプBとする．

キーボード入力の誤字データ26件には，誤字タイプAが14件，誤字タイプBが8件，その他が4件含まれる．キーボード入力による誤字タイプAには(1a-c)のような用例が見られる．なお，以下取り上げる用例について，[]内に誤字タイプ，やり取りの共時性，相手との関係性を表す番号をふる(図1参照)．斜体括弧内には，本来意図されていたはずの送信内容を，推測やその後の修正行動をもとに筆者が付記している．また，記号や句読点は表記ママで使用する．

(1) a. ちょっと友達とジョグしてkyる *(ちょっと友達とジョグしてくる)* [KA11]
　　b. 楽なじょうでいいよ *(楽な方でいいよ)* [KA11]
　　c. 地元から都会に行ってた人が地元に戻ったってことんr *(地元に戻ったってことね)* [KA11]

フリック入力の誤字データ66件には，誤字タイプAが38件，誤字タイプBが18件，その他が10件含まれる．フリック入力による誤字タイプAには(2a-c)のような用例が見られる．

(2) a. みんなでてふよ～ *(みんなでてるよ～)* [FA11]
　　b. さみしかった、、ら *(さみしかった、、、)* [FA11]
　　c. おかしがほきいの！ *(おかしがほしいの！)* [FA11]

キーボード入力およびフリック入力に見られる誤字タイプBの例を(3a-b)に示す．また，その他に分類される誤字には次の(4a-b)が含まれる．

(3) a. 3鴨防いでくれるし *(酸化も防いでくれるし)* [KB11]
　　b. 復讐できるのすごいね *(復習できるのすごいね)* [FB11]

(4) a. 合宿にの物品関連で質問 *(合宿の物品関連で質問)* [KX21]
　　b. ね、行く時はあたな誘うね！！ *(行く時はあなた誘うね！！)* [FX11]

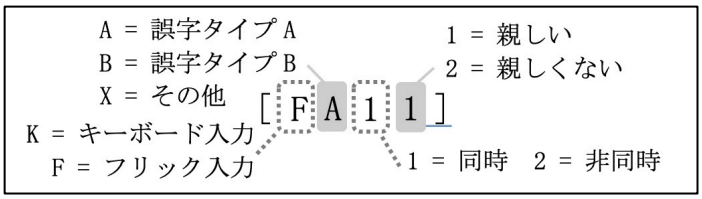

図1　データ情報を示す記号

3.2 修正行動の種類

次に，誤字に対しどのような修正行動が見られたかを分類する．92件のデータには，修正行動をしない(38件，以下「無」)，修正はせず誤字に言及する(7件，以下「無+」)，修正部分のみを送信する(35件，以下「有」)，笑いや絵文字，報告などを伴って誤字部分を修正する(12件，以下「有+」)が含まれた．なお，「有」には，事前調査で得られた「*誤字→修正内容*」(1件)に加え，英語圏に見られる「*+*修正内容*」(4件)，修正を試行するも達成できないもの(1件)も含まれる．ここでは，それぞれの修正行動をタイプ別に見ていくこととする．

まず，修正行動「無」では，誤字が修正されることなく，送り手あるいは受け手によって会話が進行されるか，送った後に受け手から「？」「読めなかった」などの指摘を受ける様子が見受けられる(5a-b)．以下，受け手からの返信に下線を引いて区別し，メッセージ1通ごとを改行で示す．

(5) a. どうすり *(どうする)* [KA11]
　　なんか食いたいのある
　　b. しばねんさちいこう *(柴犬は最高)* [FA21]
　　<u>？？</u>

アンケート調査からは，修正内容を送信しないことに関して，「意味が通じていそうなら直さない」「単純に直すのが面倒」「会話のテンポが速いときは誤字を直さない」「友人や家族などはよっぽどひどい間違いでない限り直さない」「数分経ってからとか時間経過した後で見返した時に誤字を見つけてしまった場合は直しづらい」といった意識が共有された．送り手の主観的な感覚として，誤字の種類や，機能的要因である会話の共時性，社会的要因である受け手との関係性によって修正行動の選択が作用されていることが示唆される．

次に，修正行動「無+」には，直接修正内容を送信しないものの誤字をしたことに言及するものが分類される(6a–b)．特に(6a)のように，「面白い誤字や誤変換は，時にツッコミどころになり，笑いが生まれたりする」ことから，本来意図された送信内容が相互に理解可能という前提のもと，修正内容ではなく予想外の誤変換に対する笑いを共有するような言語行動が見られると考えられる．このように笑いが共有できるかどうかも，受け手が目上や上司の場合には「送信を取り消して修正することがある」ことや「『誤字失礼しました』など一言添えて直すこともある」ことから，受け手との関係性に委ねられる部分があるのではないだろうか．

(6) a. でも無理には誘わん諏訪 *(でも無理には誘わんすわ)* [FB11]
　　諏訪w
　b. おつかれさまでした！、 *(おつかれさまでした！！)* [FB21]
　　点が誤字

修正行動「有」は，会話の流れを阻害しない形で修正内容が挿入されている点が特徴的である(7a–b)．後文脈においても誤字に明示的な言及をするものはなく，会話の一部というよりは注釈のように添えられている．「会話の理解に支障をきたすような間違い」や「違う意味にとらえられるもの」はこのように修正するという意見から，誤字の種類によって修正行動が規定されることも示唆される．また，誤字の位置によって修正範囲が異なるようである；文末の誤字はその箇所とすり替えられるべき 1 文字ないし 2 文字が追って共有されやすい(e.g.「中野、阿佐ヶ谷、吉祥寺かな中央線だた」「と」)が，文中の誤字はよりまとまりで指し示されやすい(e.g.「あら！最初ならなかったのね笑笑」「*最初から」)．

(7) a. 一回の、北側の窓際の机にいる *(一階の、北側の窓際の机にいる)* [KB22]
　　一階
　b. トイレ終わったは向かうわ *(トイレ終わったら向かうわ)* [FA11]
　　終わったら

最後に，修正行動「有+」は，すでに挙げた「無+」と「有」の要素を併せ持つような修正行動パターンである．なかには，誤字を報告しながら修正内容を提示するものや，修正内容に笑いを表す「笑」などを伴うもの，修正内容に絵文字が付け加えられるものに加え，自己ツッコミを入れるものもある(8a–d)．このような修正行動には，「会話が同時進行で，かつ友だちとの会話の時[に]，ミスが面白くて笑いながら訂正する」様子や「面白い誤字があったら，笑えて嬉しくなる」様子が反映されているのではないだろうか．「無+」と同様，受け手からの反応が期待できることもあるだろう．

(8) a. 酒豪も決めたほうがいいかな *(集合も決めたほうがいいかな)* [KX11]
　　集合
　　めっちゃ変な誤字した
　b. ええーーー気持ちだけでもすごすありがとう😭 *(気持ちだけでもすごくありがとう😭)* [FA21]
　　すごくありがとうの誤字です笑
　c. はい！大丈夫death！ *(はい！大丈夫です！)* [FB21]
　　大丈夫です！💦
　d. 私はね(　[FX11]
　　カッコの位置違うがな
　　(私はね

さらに最近では，LINE の機能に「送信取り消し」が導入されているため，「目上の人(主に会社の上司)への LINE に誤字があった場合」にそれを活用するケースも多いようである．他にも，「リプライ機能」を使って修正する場合もある．また，修正行動「有」に含まれる「*誤字→修正内容*」や「*+*修正内容*」に関しては，キーボードかフリックかで入力の手間に差がある点にも留意したい；矢印「→」の記号はキーボード入力では「z+1」による自動変換が利用可能であるのに対し，フリック入力では「やじるし」と打ってから予測変換を利用するか，「☆123」を選択し数字キーに切り替えてから「1」を右方向にスライドする必要がある(図 2)．アスタリスク「*」については，キーボード入力では「123」から数字記号キー，さらに「#+=」に切り替える．フリック入力では「☆123」から数字キーに切り替えたのち「4」を上方向にスライドすることで表示される全角の「＊」を，その予測変換から小文字に変更する(図 2)．

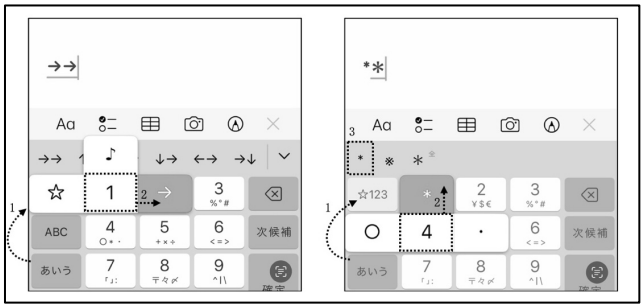

図2　フリック入力による「→」(左)と「⁎」(右)入力のプロセス

以上より，誤字の種類や，機能的要因である会話の共時性，社会的要因である受け手との関係性といった修正行動そのものへの動機となる要因に加え，LINE の有する機能やキーボードの種類による修正行動の選択可能性によって，選択される修正行動が規定されるのではないかという示唆が得られた．なお，誤字の種類―特に誤字タイプ B のような「正しい」表記とのずれに関する修正行動の選択には，生理的・心理的影響や送り手の社会的イメージの低下といった言語イデオロギー構成要素の影響も考慮する必要があるだろう(Congnon & Draelants, 2018; 谷, 2023).

4. おわりに

インターネットが普及した現在，CMC は多くの人にとって日常的なものとなっている．CMC における言語使用に関する研究が活発に行われるなか，CMC の特徴によってどのように言語行動が規定されるかを検討する必要性が高まっていると考えられる．本研究では，日本語環境においていくつかの種類が見られる SNS における誤字の修正行動を対象に，その様相について用例や人々の意識をもとに記述，考察した．誤字にはキーボード誘発性の高い誤りや漢字の誤変換が見られ，これらの誤字タイプが修正行動の要因になりうるほか，やりとりの進行速度や受け手との関係性によって修正行動が規定されうることが示唆された．さらに，LINE 独自の機能や送り手の入力方法に付随する労力が修正行動に作用する可能性についても考察した．今後は，これらが実際にどの程度修正行動に影響を及ぼすかについて，量的に検討をしていく必要がある．

参考文献

Cougnon, Louise-Amélie & Draelants, Hugues (2018). Language ideologies and writing systems in CMC: A sociolinguistic approach Language and the New (Instant) Media, 9, 88-99.

Flesch, Marie (2019). “That spelling tho”: A sociolinguistic study of the nonstandard form of though in a corpus of Reddit comments European Journal of Applied Linguistics, 7(2), 37-40.

Herring, Susan C. (2007). A faceted classification scheme for computer-mediated discourse Language @Internet, 4, article 1 https://www.languageatinternet.org/articles/2007/761 [accessed January 2023].

加納なおみ・佐々木泰子・楊虹・船戸はるな (2017). 「打ち言葉」における句点の役割: 日本人大学生の LINE メッセージを巡る一考察 人文科学研究, 13: 27-40.

三宅和子 (2005). 携帯メールの話しことばと書きことば: 電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション メディアとことば, 2: 234-261.

西川勇佑・中村雅子 (2015). LINE コミュニケーションの特性の分析 東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル, 16: 49-59.

落合哉人 (2022). メディア・モードの機能は言語使用をどのように変えるか?: 携帯メール・LINE チャット・対面会話における終助詞の使用と不使用を例に 筑波日本語研究, 26: 1-19.

Squires, Lauren (2012). Whos punctuating what? Sociolinguistic variation in instant messaging Alexandra Jaffe, Jannis Androutsopoulos, Mark Sebba & Sally Johnson(eds.) *Orthography as social action*. De Gruyter Mouton pp. 289-323.

Taglimonte, Sali A. (2016). Internet language: everyone’s online Sali A. Taglimonte(ed.) *Teen talk: The language of adolescents* Cambridge University Press pp.205-255.

田中ゆかり (2014). ヴァーチャル方言の 3 用法: 「打ちことば」を例として 石黒圭・橋本行洋(編) 話し言葉と書き言葉の接点 ひつじ書房 pp. 37-55.

谷茉利子 (2023). 匿名 SNS におけるメタ語用論的言説の質的分析: 「打ちことば」規範に関する社会言語学的考察 日本認知科学会第 40 回大会発表論文集, 758-761.